

九州大学 CEO クラブ総会 議事概要 (案)

- 日 時 令和5年6月16日(金) 16:30~18:00
(参考) 18:10~19:30 懇親会
- 開催方法 対面とオンラインでの両形式にて開催
- 会場 日本橋ライフサイエンスビル 9階 912-913室
- 出席者 別添のとおり
- 進行 園田 佳巨 委員 九州大学理事・副学長(同窓会担当)
- 事務局 九州大学 CEO クラブ事務局(九州大学総務部同窓生・基金課 内)

1. 会長挨拶

石橋会長から、4年ぶりの東京開催である旨の説明があり、また資料1に基づき「Vision2030」について、3つの基盤組織の設立や各エントリポイントに係る活動実績、オープン・イノベーション・プラットフォーム(OIP)を中心とする研究成果の社会実装、自治体や九州沖縄地区の他大学等との連携、次世代研究者挑戦的研究プログラム(K-SPRING)を中心とする大学院教育改革等について発言があった。

2. 新規会員紹介

園田委員から、資料2に基づき、11名の新規会員について紹介があり、現在の会員数が105名である旨の報告があった。

続いて、会場出席の新規会員3名と、オンライン出席の新規会員3名から、それぞれ簡単な自己紹介があった。

3. 運営委員会委員等について

園田委員から、資料3に基づき、運営委員会委員のうち2名が委員を退任し名誉会員となること、また九州大学執行部の3名が新たに当該委員に着任することについて報告があった。

続いて、新規委員の3名から、簡単な自己紹介があった。

4. 今後の本クラブの活動について

園田委員から、本クラブの活動のうち、令和4年度活動報告及び決算、令和5年度事業計画及び予算案については、事前に書面回議にて附議・承認済である旨報告があった。

引き続き、谷川幹事から、資料4に基づき、昨年度のマッチング事業、ビジネスセミナー等具体的な活動実績について報告があり、また今年度の活動計画詳細として、少人数意見交換会の実施方針案、総会・懇親会等の予定、会員の自主運営による「ゴルフ同好会(仮称)」案等に関する説明があり、大要次のような意見交換があった。

- ・参画企業の中には、全国規模の大企業もあれば専門性の高い企業も含まれているので、会員同士の紹介や情報交換のプラットフォームを設けてはいかがか。

- 懇親会で自社紹介の場を設けて来たが、会員数が100社を超えるので、例えば当クラブのHPを利用した交流の場の設置を検討したい。会員の方へのアンケートや世話人会でも検討していきたい。
- ・会員数がまだ少ないと感じており、クラブのコンテンツをより魅力的にし、会員候補者への更なる広報も検討いただきたい。
- 本クラブ立ち上げ時に調べた情報では、会員有資格者は780名程おり、加入したのは80名程度であった。御指摘のとおり、コンテンツの魅力向上や広報も十分とは考えていない。そのような中、今回の10名超の会員増加は会員の紹介や事務局の営業によるところもあり、成功例も踏まえ方策を検討していきたい。
- 会の魅力については、大学にも責任があると理解している。学生との意見交換やインターンシップの機会提供など、会員のメリットもPRしていく。
- ・数年前に、知人である東京の上場企業を九大の産学連携窓口案内したが、人手が全く足りていない印象であった。クラブ事務局が産学連携のサポートをするのはありがたいが、そもそも九大側で受け入れ体制はできているのか。
- 産学連携の窓口には、クラブ会員企業であることを明示して伝え、対応を求めるようにする。なお、産学連携担当部署には改善の検討を求めていく。
- 後ほどOIPについての紹介もあるので、是非こちらも御覧いただきたい。

5. 九創会から活動報告

九創会会長である鍵本副会長から、資料5に基づき、九創会の活動報告として「刮目基金奨励金」事業についての概要及び第一期採択者等について報告があり、今後も継続して同会の活動状況について当クラブ総会等の場において報告が行われる旨の説明があった。

6. 学生発ベンチャー紹介

園田委員から、会員からの要望が多い、九州大学の学生やベンチャーに関する紹介として、九州大学を卒業・修了した学生発のベンチャー企業である「ウミトロン株式会社」と、同社共同創業者である山田雅彦氏から事業紹介がある旨説明があった。

続いて、山田氏から、資料6に基づき、ウミトロン社の概要・活動実績等についてスライド・動画等による説明があり、大要次のような意見交換があった。

- ・九大出身者がこのような事業を実施されていることは非常に素晴らしい。まだまだ会社としてスケールアップできると思われる。本学関係者によるベンチャーの好事例と思われ、次々と同じようなベンチャーが続いてくれると良い。大学としても何等かの連携・支援ができないか検討したい。

→ベンチャー先進国のアメリカでは農業関係のユニコーン企業は多いが、水産養殖関係のベンチャーは盛んではなく競合企業が少ない。水産養殖分野は世界でも日本などアジアが中心であり、日本の中でも九州で非常に盛んであるので、自社に続いて水産系のベンチャーが立ち上がってくることを期待している。

その後、園田委員から、今後のクラブ総会においても引き続き学生や卒業生の活動紹介、ベンチャー等について紹介する機会を設けて行く方針である旨、付言があった。

7. 教育事業紹介

園田委員から、資料7に基づき、冒頭の会長挨拶でも言及があった「Vision2030」での大学院教育改革の取組として、次世代研究者挑戦的研究プログラム(K-SPRING)について、特に企業に参画いただけるコンソーシアムや本プログラム受講大学院生とコンソーシアム参画企業が直接交流可能な場である「MIRAI-SDGs プラットフォーム」について、会員専用ページや取組紹介動画等を用いて説明があった。

8. 大学取組紹介

大西副理事から、資料8に基づき、冒頭の会長挨拶でも言及があった「Vision2030」における研究成果社会実装の中核的取組であるオープン・イノベーション・プラットフォーム(OIP)について、新拠点への移転やOIP自体の大学外部法人化、また今後の目標として企業サポートのための大学ベンチャーファンドの設立や開発に特化した受託開発法人の設立等について説明があった。

9. 閉会

園田委員から、今後の総会等の日程については、後日事務局から案内する旨説明があった。

以上